

1 ポイント（特に工夫した項目に○ いくつでも）

作成者：佐藤絢香（小学部）

教材教具の工夫	
1 実態に合っているか？	○
2 ねらいが明確か？	○
3 興味関心を生かしているか？	
4 シンプルで誰でも再現可能か？	○
5 一目で動作をイメージできるか？	
6 児童生徒も教師も使いやすいか？	○
7 実際の生活や他の場面で生かせるか？	○

2 児童生徒の実態（個人またはグループ）

- ・カレンダーの日にちや会進行の順等の決まっている順番がまだ身についておらず、自分の目の前にある所から始める傾向がある。
- ・1の次は3、というように、数を飛ばしやすい。
- ・言葉を聞いて行動することがほぼできる。
- ・ほとんど見られなくなってきたが、言葉を聞いてもなかなか行動に移そうとせず、無関係のことをし始めることもある。

3 教材教具のねらい

- ・上から下、左から右などの順番を、法則性を捉えて行動に反映できる。

4 改善の経緯

(1) 4～5月頃の使用例や児童生徒の様子

- ・朝の会や帰りの会の進行で、進行表を見せながら教師が「1は？」と問うと、自分の視界の中心に見えると考えられる3や4を指差すことが多かった。
- ・週予定の日にちカード掲示では、好きな所から始め、順番はばらばらであった。
- ・月予定の日にちカード掲示でも、好きな所から始め、順番は無関係であった。
- ・教室の床の水ぶき回数ボードでは、数字以外の所に磁石を置いたり、ボードの外に磁石を置いたりしていた。
- ・順番にシールを貼る学習では、3や5からスタートしたり、数を飛ばしたりすることが多かった。
- ・ケースに順番に1個ずつデコレーションボールを入れる学習では、3からスタートしたり、ケースにデコレーションボールを2、3個入れたりしていた。

(2) 12月現在の使用例や児童生徒の様子

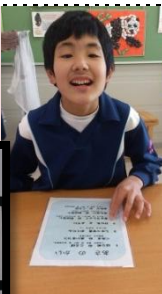
①朝の会・帰りの会 進行

- ・進行表の数字を自分の指で差しながら、会を進行している。教師が「1は？」と問うと、1を指差すことができるようになってきた。

②週予定

- ・金曜日に次週の日付に変える活動を継続している。最も左にある日にちから順番に日にちカードを取ることができるようになってきた。また、取ったものは、下に重ねる約束も守れるようになってきた。

(例：「7」の下に「8」「9」「10」となるようにカードを重ねる。)



改善のポイント！！

- ・朝の会や帰りの会の進行では、教師と一緒に数字を指差しながら、一つ一つ丁寧に、毎日確認する。

今後の改善や使用について

- ・どの場面においても、上から下、左から右への法則性を大切にし、学習場面と生活場面が相互に関連し合えるような環境を設定していく。
- ・指導を継続していくことで順序について定着を図る。

③月予定

- ・月の初めに、上から順番に日にちカードを貼る活動では、貼る場所を確認しながら上から順番に日にちを貼ることができるようになってきた。時々、日にちと日にちの間に隙間が空き、その隙間に他の日にちを貼りそうになることもあるが、「本当？」と聞くと、やり直そうとする姿が見られるようになった。



④水ぶき（教室の床、直線コース5往復）

- ・清掃中の水ぶきは、教師に具体的な回数を言われなくても、自分で〇回目の数字の所に磁石を置くことができるようになってきた。



⑤順番シール（自立活動）

- ・児童の視界の中心に1がくるようにノートを置いたり、繰り返して学習をしたりしたことで、自分で1から10まで順番にシールを貼ることができるようになってきた。



⑥左のケースから1個ずつデコレーションボールを入れる（自立活動）

- ・ケースに順番に1個ずつデコレーションボールを入れる学習ができるようになった。入れ終えたケースは上にあげ、確実にデコレーションボールを順番を守って入れることができるようになった。

